

[自己覚知]を促す、経営の仕組みづくり

[自己覚知]経営 (Self-Awareness Management)

[自己覚知]とは

自分の役割と責任に気付くこと

[自己覚知]経営とは

経営者を含めた全従業員が
 自らの役割と責任に気付く([自己覚知]し)
 それぞれの持ち場の経営者として
 主体的・自主的に事業に関わることによって
 その持てる能力を最大限に誘発させる経営

区分	日時	講座の内容
講座の内容	第一講 平成29年 7月26日(水) 13:00~17:00	[自己覚知]経営とは何か :[自己覚知]、[自己覚知]経営の基本的な考え方を理解すると共に埼玉県卓越企業(しまむら・ヤオコー・ハイデイ日高)を事例に、その成長を支えている経営の仕組みを[自己覚知]経営の5つの要素の視点で解説します。また、企業等の持続的発展に[自己覚知]がいかに重要な関わりを持つかを識り、そして、それを「どう仕組み化していくか」の方向性を示します。
	第二講 平成29年 8月30日(水) 13:00~17:00	①経営哲学の再構築 経営哲学 …理念・社是・社訓などの全体を貫く経営に関する基本的な「考え方」 :経営判断の基軸となる経営哲学とは何かを“利他”の視点で抽象化して考え尽くします。また、既に経営哲学がある場合にはそれをベースに再構築を試みます。さらに経営哲学・経営理念を高めることの意義とその効果を知り、事例企業からその有効性をイメージし、自社への応用を図ります。
	第三講 平成29年 9月13日(水) 13:00~17:00	②組織の再設計(再認識) :経営哲学の再構築で行ったプロセスと同様、組織の再設計(再認識)においても事業を抽象化し、事業の本質的な意義・目的を深めていきます。自分の部署・部門、役職が本来持つ役割と責任を経営哲学を踏まえたうえで抽象化(定義付け)し、組織全体に機能させ、役職者の次元・視点を高められるようにしていきます。
	第四講 平成29年 9月27日(水) 13:00~17:00	③意味ある<場>の設定 :<場>の概念や効果を理解し、<場>を設けることの意味を認識したうえで、具体的・実践的な経営管理手法である自主管理経営を解説します。自主管理経営とは、<場>のひとつとして従業員の潜在能力を開発・発揮させる仕組みです。仕事をしながらにして人財育成を可能にする効果的な方法を提案します。
	第五講 平成29年 10月18日(水) 13:00~17:00	④最適執行のシステム化 :ひとつの仕組みを徹底させ、継続させ、改善させ、進化させるためには「仕組みを動かす仕組み」が必要となります。その仕組みである自主管理経営の導入事例から仕組み化の2つの要(1:個人の暗黙知が形式知化され、社内に浸透することで組織知にすること。2:全従業員で経営哲学を共有し、日常業務の中に落とし込むこと)を解説します。
	第六講 平成29年 11月15日(水) 13:00~17:00	⑤好ましい組織風土の確立 :組織風土は必然的に形成されますが、経営哲学を具現化したノーム(規範)に満たない好ましい組織風土は簡単には醸成されません。そこで、貴社にとっての好ましい組織風土づくりについて解説し、その定着・継続・進化のための方法を解説します。
経営者課程 担当教授	杉田 圭三 (すぎた けいぞう)	(講師プロフィール) 1945年埼玉県生まれ。税理士、行政書士、経営・事業承継・医業経営コンサルタント、フィナンシャルプランナー。日本大学大学院(経営学専攻)博士前期課程修了。日本大学卒業後、民間企業、公認会計士・税理士事務所勤務を経て1979年、(株)CWM総合経営研究所を設立し代表取締役。また、TKC全国会中央研修所企画委員長、公益社団法人日本医業経営コンサルタント協会副会長、同埼玉県支部支部長、一般財団法人医療・福祉・環境経営支援機構理事長、盛和塾「埼玉」代表世話人、リタネッツ事業協同組合理事長などに就任する。各業界・団体で講演活動を行い著書・論文も多数ある。